

(別添3)

【仙台市】 校務DX計画

◎FAXでのやり取り・押印の廃止

文部科学省が令和6年9月に実施した「GIGAスクールの構想の下での校務DXチェックリストの自己点検結果(速報値)」(以下、「校務DX自己点検」という。)によると、仙台市立学校のうち「日常の業務にFAXを使用している。」と回答した学校は86.6%、「業務で押印が必要な書類はある。」と回答した学校は97.8%となっている。

上記のとおりFAXでのやり取り・押印については未だに多岐にわたる業務において使用されており、課題となっている。そこでFAXや押印がどの業務で利用されているか把握に努め、FAXや押印の利用が合理的であると認められる場合などを除き、FAXや押印の原則廃止に向けて取り組んでいく。また、原則廃止にむけて本市のBPR推進課とも協力し、学校現場でニーズの高い業務から順に業務フローの見直しや様式の電子化等の取り組みを行っていく。

◎校務支援システムへの名簿情報の不必要な手入力作業

校務支援システムへの名簿情報の不必要な手入力作業については令和5年度に業務の見直しを行い、小学校新1年生のデータを紙で送付して学校で入力作業となっていた業務について、住民基本台帳の情報を学校に電子で送付することで学校での手入力作業を不要とする等の対応を行っている。

しかしながら「校務DX自己点検」の結果によると「紙・デジタルデータを参照し、手入力している。」と回答した学校が33.3%存在していることから、今後も教員の負担軽減のために見直しすべき業務について改善に努めていく。

◎クラウド環境を活用した校務DX

現在データセンター内の機器や校務支援システムはオンプレミス型(データセンター管理)で運用しており、高いセキュリティレベルを保つ一方で、校務支援システム利用等の多くの業務は職員室内に限られてしまい、課題となっている。

令和8年度のデータセンターや校務支援システムの更新後も、引き続き校務支援システムのサーバーをオンプレミス型とする予定だが、教職員の新しい働き方を検討する上で高いセキュリティを保ちながらも職員室の内外、学校の内外を問わず校務支援システムにアクセスできるようにゼロトラストセキュリティを導入して進めていく予定である。

ゼロトラスト化を実現し、Microsoft365やGoogleDrive等クラウドツールの活用を推進していくことで、学校内資料のペーパーレス化や校務の効率化を進めていく。

ゼロトラスト化を実現するにあたって最適な認証方法の検討が課題となっているため、令和6年度より市立高校2校で顔認証システムの検証を行っており、セキュリティレベルを保った上で学校での負担にならない認証方法や運用を検討していく。また、教職員の新

しい働き方を見据えて、令和6年度より緊急時の使用を想定したリモートアクセスも導入し、検証を行っている。

◎次世代の校務支援システム

本市で導入している現行の校務支援システムは、令和8年7月まで運用予定であり、教育委員会と学校間のやり取り、成績処理、校務等に活用している。

次世代の校務支援システム導入にあたっては、校務系・学習系ネットワークの統合やクラウドベースでの校務実施を検討する必要があるが、コストや運用面、学習系で作成されているデータと校務系で作成された膨大なデータの連携等様々な課題がある。

次世代の校務支援システムの導入においては、国の次世代の校務デジタル化実証事業の成果や各自治体の動向等も参考にしながら検討していく。

なお、次世代の校務デジタル化に求められる学校や教育行政向けに教育データを可視化するインターフェースについては、令和6年度に校務支援システムにダッシュボード機能を追加し、実現している。これにより様々なデータを1つの画面に集約・可視化することで、児童生徒の迅速な状況把握ができるようになった。引き続き学校および教育委員会からの意見を参考にし、表示内容の見直しを行うなど、さらなる活用を推進していく。

今後ますます重要となるデータ連携・利活用において、校務支援システムにはハブとなることが求められるため、将来的にはパブリッククラウド上で運用できるよう検討していく。